

診療科目 ● **免疫・膠原病・血液内科学（仮称）**
● **免疫・膠原病・血液内科学（仮称） B.血液専攻コース**

プログラム責任者：上田 敦久

附属病院	リウマチ・血液・感染症内科 / 呼吸器内科 血液コース
教授	選考中
准教授	富田 直人
講師	萩原 真紀
助教	立花 崇孝、宮崎 拓也、中嶋 ゆき、高橋 寛行
シニアレジデント	松村 彩子
附属市民総合医療センター	血液内科
准教授	藤澤 信
講師	松本 憲二
助教	本橋 賢治 山本 渉、石井 好美
指導診療医	小山 哲、板橋 めぐみ
シニアレジデント	安藤 太基

本プログラムの特徴

当プログラムでは、血液だけでなく、リウマチ・膠原病、感染症グループが一つのユニットを形成し互いに協力し、診療に当たっています。大学附属病院では3グループと呼吸器内科の全員と呼吸器内科が合同で週一回の新患カンファレンス、回診に参加し、専門領域を越え、勉強する機会が得られます。当コースでは血液疾患、とくに造血器悪性疾患に対し、診断・手技の向上を図るとともに、的確な治療方針を習得できるような臨床指導を行います。診療体制は主治医－上級医（後期研修医）－研修医－学生がチームとなって8－12名の患者を担当するクリニカルクラークシップ制です。後期研修医はその中心となって診療にあたり、前期研修医、学生に対しては指導的な役割を担うことが期待されています。後期研修では、造血器疾患診療の基礎、すなわち病歴の聴取・診察および所見の記載・骨髄検査の施行および骨髄像の解釈・髄液検査の施行および解釈・中心静脈カテーテルの挿入および管理・好中球減少時の抗菌薬適正使用・抗癌剤の適正使用・などを反復履修しながら、発展的に具体的に、実際の患者さんを通して、実地研修していただきます。大学附属病院・市民総合医療センターともに造血幹細胞移植症例が豊富であり、多数の症例を経験することができます。血液専門医を目指す方、移植治療医を目指したい方にも、個人の希望をできるだけ取り入れた研修計画を組んでいきます。臨床のみに特化したシニアレジデントコースを選択することもできますが、いろいろな可能性を考慮して、臨床とともに大学院での研究を行うことができる大学院長期履修の大学院長期履修制度を利用することをより推奨致します。

目標とする学会認定専門資格

日本内科学会総合内科専門医

日本血液学会認定血液専門医

主な協力病院

神奈川県立がんセンター、藤沢市民病院、大和市立病院、横須賀市立市民病院、静岡赤十字病院、済生会横浜市南部病院

診療科のホームページ URL

<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~naika1/>

担当者・連絡先

上田 敦久
sec1nai@med.yokohama-cu.ac.jp

診療科の実績

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血、血友病など、造血器疾患全般の診療にあたっています。附属病院は横浜市南部の、センター病院は横浜市中心部のそれぞれ中核病院として、多数の患者さんが紹介されてくるため、どちらも症例数はとても豊富で、疾患も多岐にわたります。両病院ともに白血病患者は年間20－40人程度、悪性リンパ腫患者は年間50－70人程度が新患として訪れ、造血幹細胞移植も年間平均で、同種移植を10－20例、自家移植を5－15例施行しています。

指導医から一言

横浜市立大学血液グループは、白血病、悪性リンパ腫などの造血器疾患患者を対象に診療を行っています。白血病診療は日本成人白血病研究グループ（JALSG）の共通プロトコールに沿って行っており、症例数も豊富です。また複数名がプロトコール作成委員に加わっており、JALSGの中心的存在となっています。悪性リンパ腫診療は年間約400例の新患数と豊富であり、数多くの臨床研究を発表しています。造血幹細胞移植症例も豊富で、移植4施設（横浜市立大学附属病院・横浜市立大学市民総合医療センター・神奈川県立がんセンター・静岡赤十字病院）の累積同種移植症例数は1,000例を越え、年間平均では70～90例となっています。関東造血幹細胞移植研究グループのメンバーとして、造血幹細胞移植に関する多施設共同研究に加わっています。

このように、横浜市立大学血液グループは関連9施設がまとまった形で共通の治療を行っているという特徴があります。メーリングリストを利用したdiscussionも盛んに行われています。血液グループ医師は総勢42名であり、他の首都圏の大学や中核病院を中心とした血液診療グループと比較して人員的に恵まれています。血液専門医は横浜市内・神奈川県内でもまだかなり不足しているのが現状です。女性医師が17名と多く、出産・育児などの後にも本人の意思で復職が可能となるように柔軟に対応しております。大学附属病院の診療体制はクリニカルクラークシップ制をとっています。シニアレジデントはその中心となって診療にあたり、かつ初期研修医、学生に対しては指導的な役割を担うことが期待されています。また週1回の専門外来診療、月に2～3回程度の当直、週2回程度の近隣病院への診療援助を行っています。血液グループの仕事に少しでも興味をもたれた方は、まずご連絡ください。お待ちしております。（准教授：富田 直人）

シニアレジデントからのメッセージ

私はシニアレジデントとしての勤務3年目、大学院の3年生です。一昨年は市民総合医療センターで、昨年からは附属病院の血液グループで勤務させて頂いています。大学院生としては、講義・レポートに加えて抄読会への参加や、臨床研究の計画をご指導頂きながら少しずつ進めているところです。血液内科医としては、入院では白血病や悪性リンパ腫といった造血器悪性腫瘍の患者さんをメインに主治医として担当させて頂き、外来では多発性骨髄腫やITP、血友病など幅広い疾患の患者さんを診させて頂いています。

血液内科の診療はICUでの全身管理から緩和医療まで、幅広い知識が必要で、上級医の先生方にご指導頂きながら毎日トレーニングの日々です。大変ですがとてもやりがいがあります。診断、患者さんやご家族への告知、そして治療を選択していく中で研修医時代には全く経験のない責任の重さを感じることもあります。でも患者さんを救命できた時の喜びはひとしおで、次への原動力となります。血液内科の道に進もうか迷っている方は是非見学にいらして下さい。また医局の雰囲気もよく、血液以外の感染症・膠原病の先生方にも相談しやすいです。医局選びに迷っている方も是非、見に来て下さい。一緒に仕事をしましょう。